

写真1／海・山・里を走るいすみ鉄道



写真2／スリムな風貌が人気の四日市あすなろう鉄道



2020.12 Monthly Report

「GO TO」の縮小にも負けず、乗降客の慢性的減少化にも負けない 全国各地の人気・元気ローカル鉄道は鉄道電気マン志望者憧れのマト ～逞しく生き延びるローカル線へのエール!!～

☆日本列島はまだまだ鉄道天国だ!!

本紙編集部ではこれまで、さまざまな形の「電気の仕事」取材しては、業界企業への就職を希望する学生向けに編集した記事を、ウェブサイトや『別冊・就活特集号』（大学版・専門学校版・職業訓練校版・総合版を年4回発行）などにアップしてきた。

なかでも最近の記事で学校などから好評を得たのは、今年4月に発行した『別冊・就活特集号 通巻18号（専門学校版）』の特集記事「電気の仕事——鉄道電気工事編」だった（取材協力／京急電機株式会社／大雄電設工業株式会社／株式会社鉄信）。

車社会の進捗などにより、新幹線網や大都市圏の鉄道網を除けば、鉄道交通は全国的に「量の面」で縮小化の道を歩んでいる。しかし、鉄道網は現在も日本の



写真3／昔懐かしい車両が走る長野電鉄

交通網の大動脈である。量的に減少化の道を歩んでいようと、その存在感の大きさは健在だ。

鉄道の建設や運営にかかわる仕事をしたいと願う若者も少なくないが、電気工事を学ぶ若者たちにも意外に知られていないのが鉄道電気工事の世界だ。

そこで専門学校で電気・電気工事を学ぶ若者向けに前出の特集を組んだわけだが、今週号の本欄では、新型コロナ禍のなかでも健気に頑張る全国のローカル鉄道の数々を写真特集してみたい。

1時間に1本、あるいは2時間に1本しか走らないローカル鉄道でも、鉄道電気工事に携わる人々は、日夜、保守作業にいそしんでいる。だからこそ、これらの美しくも雄々しいローカル鉄道たちはダイヤ通りの運行を続けられる。そんな鉄道にかかわる鉄道電気マンへの一種のエールとしてお届けする次第だ。

*

まず写真1は千葉県・外房の大原駅から房総半島中央部の上総中野駅までの26.8kmを結ぶ第三セクター路線《いすみ鉄道》だ。のっけから電車でない気動車路線を取り上げるのもどうかと思うが、車両は非電化でも保安装置や踏切関係の設備などを含め、鉄道電気マンの活躍する場面は多い。

終着の上総中野駅からは内房・五井駅までを結ぶ小湊鉄道（こちらも非電化路線）と連絡し、両者合わせて房総半島を横断している。沿線風景が美しく、女性